

2016年10月18日10時から11時30分、大石さん宅にて

大石様

先日は貴重なお話を伺う機会を頂き誠にありがとうございました。

次々に落ちてくる爆弾、逃げ場のない空襲の話はとても生々しく今まで本や映像でみていたことをはるかに超える恐ろしさでした。未来を夢見することもできずに亡くなっていった若者達のことを、自分の息子だったらと思うと身震いしてしまいます。戦争とは本当に恐ろしいもの、そして自分とは関係のないものではない身近なものなのだと思います。

平和を守る為に、人間や世界の歴史を知り学ぶこと、そして大事なことは何かを考えること、とおしゃっていた大石さんのお言葉が胸に刺さりました。私ももっと憲法九条の改正についてもっとよく学び自分にできることを考えて行動していきたいと思います。

MF ママ

大石様

先日は、大変貴重なお話を本当にありがとうございました。今まで本やテレビで見聞きしていた戦争の話と、実際に体験された方の直接の言葉とでは、胸に響く重みがまったく違いました。

自分の家族や大切な人達が、あのような悲しい、命を踏みにじられるような戦争に巻き込まれる事のないよう、今後も大石さんのお言葉を忘れずに、学んでいきます。本当にありがとうございました。

NM ママ

大石さん 貴重なお話をありがとうございました。

「自分の命が自分のものではなかった時代」にきた人たちの命を偲び、この平和な世の中を守り抜いていくことが、今の時代を生きる私たちの責任であるのだと強く思いました。便利なモノが溢れ、なんでも容易に手にすることができる時代。自分が今、どのような世の中にいるのかを自覚し、流されない自分でありたいと思います。子を持つ母として、知り、学び、記憶し、そして次の世代へ伝えていくことを意識しながら、これからの日々を過ごしていきたいと思います。

IM ママ

お話を聞かせて頂きありがとうございました。

時々、特集される TV 番組や戦争についての本でイメージはあったものの、大石さんの体験された世界を想像し、徴用されていたとはいえ、臭いや焼け野原の中、電車に乗って職場に向かわれたことを思うと、恐ろしく、又今は私は小さな子ども二人を守りながら…と重ねることが出来ません。経済の好転のため、便利を手に入れた私たちですが、戦後中の不便の中に幸せはもっと濃密に実感しただろうと感慨深くうかがいました。お年を重ねても、美しく伝えようとする姿が目には焼き付きました。

AT ママ

「自分の命が自分のものではなかった時代」・「お国のために死ぬことが男の美学」とされている

時代があった…今、こう聞いてもピンときません。

ですが、実際にあったこと。これが、今住んでいる日本のまぎれもない歴史の1ページ。しかし、東京にいと自らが興味をもって動かない限り、何の情報も入ってきません。原爆投下のサイレンすらない。長崎に住んでいた時は、沢山の平和について考える機会があったのに。何をされたかだけでなく、日本が外国に対して行って来たことも目を背けずに学ぶこと、憲法改正の動きを知ること。そして今何をすべきなのか。日本・世界の未来をどうしていきたいのかを真剣に考えること。こういう機会が圧倒的に少ないと感じました。又、相手を力でねじ伏せるのではなく、「話し合う」ことの大切さを感じました。自分の思いや出来事を言葉で表現する。日常から「会話する」ことを意識して、子供と過ごしていこう…小さな、とっても小さなこと。でもこれが、いつかは戦争のない世界へとつながっていくことを願って。まずは、出来ることから。第一歩。

今、子どもと過ごす変化に富んだ日々を楽しんでいます。この幸せを、次の時代にも。幸せのリレーができるのは人ごとではなく、一人一人の、この手にかかっていることを深く訴えかけてくださった大石さん。本当にありがとうございました。これからも、どうぞご自愛ください。

AM ママ

大石さんの戦時中のご体験は、それは恐ろしく残酷で、私たちの世代が想像してもしきれない程、強烈なものでした。しかし、戦争体験をただ恐ろしい話として伺っても意味はなく、自分たちの時代でも同じような社会の動きがあったときに、自分たちは声を上げて覚悟を決めて、それはおかしい！と行動できるか、そのことを考えるきっかけにしないといけないと思いました。戦争は残酷な行為自体が恐ろしいのはもちろんですが、何よりも人々がそれをじわじわと受け入れ、信じ込まされ、反対意見が良いつらくなり、時には非国民と言われ、最後は人を殺したり、自分が犠牲になることが正しいと思わされてしまうことが恐ろしいと思います。大石さんが「当時は情報も他の選択肢もなく、それしか知らなかった。疑いを持たなかった。だから皆さんはたくさんを知り、学び、何が一番大切かを必死に考えることが大切です」とおっしゃられていました。

今、世界は終わりなき戦争の時代で、日本もジワジワと戦争に加担する動きがあります。しかし70年前と違うのは、今は個人個人が様々な情報や選択肢を知ることができます。私たち一人一人が常にたくさんを選択肢をしり、戦争が唯一の選択肢ではない、もっと別のやり方があると強く信じて行動することが大切だと思いました。また、大石さんが戦後に会ったアメリカ人たちが本当に良い人々だったと、おっしゃっていたのが心に残りました。結局、一人一人の普通の人々はだれもそんな殺し合いは望んでいないのに、権力の下でそこに向かわされてしまう。逆を言えば、私たち一人一人が世界中で沢山のつながりを持ち、平和を絶対に守ると強く心に決める、そこに希望があると思います。大石さんのメッセージをしっかり受け止めました！

MM ママ

「戦争を語る」とはどういうことなのか…

その背景には決して語り切れぬ出来事や思いあるのだろうと想像します。歴史に学び、現在を知り、大石さんの静かな語りの奥にある強い思いを心に留め、子どもの未来の為に自分がどうあるべきか考えています。今回、大石さんのお話を直接伺う機会を与えられたことに感謝しています。ありが

とうございました。

HM ママ

大石様の戦争体験をお聞かせくださり、ありがとうございます。

美しい言葉にだまされた・草の匂いをはっきりと記憶されているとの言葉がとても印象的でした。

「考えること、学ぶこと、記憶すること、伝えること、それが生きていくことの中で大切なこと」一親から伝えられたことを、どう子供に伝えていけばいいのだろうと思う時があります。お言葉をいただいて、私が選択することではないのだと腑に落ちました。仕合せが幸せを望んだ時代の架け橋となるべく、ひとつずつ手でほじくって、子どもと一緒に学んでいきたいと思います。

KM ママ

未来に希望をもつべき青年たちが思いつめた目をして戦死していく…そしてほとんどの人が「不明」…命が自分のものでないということ…

今子を持つ母親として、胸がはりさける思いで涙をこらえながら聞かせいただきました。空襲の時の状況は、それまでテレビやアニメやドキュメンタリーのものとは違う、当時の生々しい状況や音や匂いまで（私の想像になりますが）頭に浮かび、何と表現したらよいのか…戦争というものが、初めてとても近く感じられました。

私の祖父はビルマで戦い、森の中ですぐ隣にいた仲間が撃たれて死んだこと、象の肉を食べたことなどを話してくれ、脇の近くに残る鉄砲の弾の破片をよく触られてくれました。驚くほどにサッパリと話してくれたものですが、幼い私を暗い気持ちにさせないようにとってくれていたのかもしれない。

大石さんのように空襲を体験された方から直接お話を聞くのは初めてでした。当時の人々は戦争に大きな疑いを持たず、いいことが待っていると思っていて（思わされていて）だから戦争へ向かう大きな波を止められなかったのかもしれない。だけど私たちは戦争の悲惨さ、むごさをこうして知ることが出来ています。今日大石さんのお話を聞き、やはりなんとしても平和を守っていかなければならない、当時と同じ道を歩んではならない、と強く思いました。今「国を守るため」という言葉で憲法が変えられていく世の中…だが言葉は美しいが、武力を使う、他国と争うということ。

「日本のことだけ考えてもだめ。やられたらやり返すだけでなく、やったことも考えて、本当の平和が得られる」大石さんのこの言葉が大きく心に残っています。学校では、日本が他国にどんなことをしたのか、戦争に関わった人々はどんな死に方をしていったのか、どんな思いだったのか…そんなことは教えられませんでした。だからこそ、自ら「知り学び伝えていく」ことは一人一人が強い意思を持ってやっていくことが大切で、私もその一人になって、子どもやその先の子供たちのために平和な日々を守っていきたくて決意を新たにしました。小中学校では平和学習が一年に一度ありましたが大人になるにつれて学ぶ機会が減っていました。今、こうして深く考えるきっかけをさせていただいたことに心から感謝しております。また学びに行かせていただきたいと思っております。私たちのためにお時間をおっていただき本当にありがとうございました。

AY ママ

数々の苦しみ、悲しみの果てにやっと手に入れた「戦わない」という憲法。その憲法を「守ってほしい、ずっと続けてほしい」と願う大石さんの言葉にはとても重みがありました。「他を知って初めて選択ができる。考えること、学ぶこと、記憶すること、伝えること、それが生きていくことの中で大切なこと」とかたりかけてくださった大石さん。ご高齢にも関わらず考え、学び、続けていらっしゃるお姿に尊敬の念を抱きました。

これからの日本を担う者の一員として「選択」していくことができるように学び、考えて、子どもたちに英和で生きる喜びにあふれた世界を残して行きたいと思います。貴重なお話と考える機会をありがとうございました。

RK ママ

大石さんのお話、ものすごく引き込まれました。終戦当時、二十歳だった女性がどんな体験をし、そして今、こうして私たちに語るまでに至ったのかということに興味を持ちました。

私の祖父は満州で終戦を終え、九州の博多湾から日本に戻ってきたのだと聞きました。祖母は、戦争で夫を亡くし、裁縫で実を立てていましたが、独り身でいると良くない噂をされるのが嫌で、祖父と結婚したのだと母から聞きました。しかし、それ以上のことは知りません。辛かった頃の話を書いてしようとは思わないのだろうし、こちらも軽い気持ちで聞くことはできません。今は二人とも他界してしまいましたが、もっと話を聞いておけば良かったと思いました。大石さんが、家族のことや家のことが一段落して、70歳になって、バルザックの純愛を手渡した男性のことを調べようと思ったこと、そして、そのことを私たちのような戦争を知らない世代に伝えようと思ってくださったこと、90歳を超えて、なお有り余るエネルギーをお持ちであることに感嘆しました。大石さんが戦後どのように毎日をすごしながら、家庭を持ち、今に至るようになったのか、そんなお話もぜひ伺ってみたいです。またお話をお聞かせください。第二回を楽しみにしております。

NK ママ

大石様 この度は貴重な話しを聞かせて下さり、ありがとうございました。40年も生きていて、実は直接戦争体験を聞いたのは、はじめての体験でした。それだけに、大石さんのお話は私の頭と心に強く大きく響きました。お話の最初に、人生で一番良かったことは「戦争が終わった事」とおっしゃっていた事がとても印象的でした。自分の命が自分のものではない時代に生きるという事がとても印象的でした。自分の命が自分のものではない時代に生きるという事が、どんなものなのか？私の命はまだしも、命より大切な子供たちの命が「お国の為」に軽んじられる事は決してあってはならない、許せない事だとおもいます。人間が沢山生まれ、沢山死んでいく中で「どのように生きるか」が大事だとおっしゃっていた言葉、そして「決心」があれば何とかなる、というお話しは忘れられません。「美しい言葉にだまされた」と何度かおっしゃっていましたが、今のこの時代も、強い言葉に引き連られてゆるゆると導かれているような気がします。焼夷弾で焼かれた街を中野まで歩かれたお話、アメリカの爆撃機に追われたお話、死体の山がもう目に入らない程の世界…生々しいお話しを伺いましたが、もし、今又戦争が起こったら、ボタン一つ押せば日本中、世界中が地獄に変わるような戦争になるのでしょうか。今、この平和な日本に暮らしていると、そのような想像力も貧弱になり、ウカウカ・フワフワと流されていまいそうになります。今私たちには危機感が

足りない。

大石さんが最後に「便利というのは多くのものを失う。手でひとつずつほじくって進むことが大切」とおっしゃっていました。このお言葉を胸に刻み、子どもたちがあおぞらの下、元気一杯走り回れる平和を守っていきたいと思います。ありがとうございました。また、お話を聞かせてください。

MK ママ